

四、成分

甲號(明治四十四年十二月製鐵分析)

▲第二酸化鐵六二、六九▲第一酸化鐵二二、四五▲硅酸六、三二

乙號(同上)

▲第二酸化鐵七三、七五▲第一酸化鐵一九、一二▲硅酸一、八七

五、採鑛費(山東鐵道會社の採掘豫算)

採掘費 一噸に付一弗五十仙

金嶺鎮青島間鐵道運賃 二弗五十仙

山元より金嶺鎮驛までの搬出費 一弗

税金及積込費 五十仙

計 五弗五十仙

尙ほ獨逸は金嶺鎮鐵山採掘と同時に滄口に一千萬馬克の資を投して製鐵所を設け年十萬噸の鑛石を熔解する計畫ありしと云ふ。(三月二十三日神戸又新)

●製鐵調査會方針

製鐵調査會設置の件は都合によ

り未だ發表に至らざるも、諸新聞の傳ふる所に據れば既に閣議にて決定し農商務省に於て委員の人選決定次第官制の發表と共に委員の任命あるべく、政府の方針として該調査會は極めて地味に實用的ならしめんとするに在り、隨て委員の如きも農商務省の官吏に加ふるに製鐵事業に經驗を有する少數の實業家を以てするに止め、上下兩院議員並に

學者等は餘り關係せざることに決したる由なるか、從來本調査會設置の説あるや各方面より種々の希望あり、殊に上院側よりは有力なる運動ありて、爲に農商務省にては委員の人選に非常の困難を感じつゝありしも、是か爲め緊要なる調査を遅延せしむるは遺憾なれば、結局兩院議員の希望を容れざるに決したりと、尙其調査方針に付て聞くに其内容に單に製鐵に止まらず、鐵材其物に關する調査をも併せ含めるものにして現在の所にては其國産の鐵は殆と言ふに足らず、隨て海外に於ける鐵材を主要なる題目として調査せらるべく、從來は輸入鐵材に關する關稅政策の討究に止まり、それ以上に踏込みて調査を爲すこと無かりしも、時局に際し諸般の施設に伴ふ材料の缺乏せる折柄とて、之れに對する十分の調査を必要とすれとも、這是場合により國交上重大なる關係を生ずるを以て、其結果の全部を公表する能はざるやも料られざる趣なり。

●鐵鋼に關する企業

各新聞紙上に傳ふる所を集

録すれば左の如し。

岸本製釘所擴張内容 尼崎の岸本製釘所にては既報の如く(本誌前號參看)事業擴張の計畫ありしか、愈其實行を見ることとなり、現在の製釘工場北手隣接地數千坪の所有地上に約五十萬圓を投し製鋼及鐵條網工場を設置すべく、昨今其基礎工事中にして、新工場は四棟千百三十五坪本年中心竣功の豫定なるか聞く所に據れば原料は主として印度支